パニツムマブ + イリノテカン療法

大津赤十字病院 薬剤部

【治療スケジュール】

以下のメニューのおくすりを2週間毎繰り返します。

	←——— 1クール ———→	
	第1日目	2～14日

薬剤名	外観	液色	薬効	投与方法	
① 生食注		無色	お薬を洗い流します。	↓ 全開・点滴	お休み
② ベクティビックス注 ® (パニツムマブ)		無色	細胞増殖を抑えます。	↓ 60～90分・点滴	
③ 生食注		無色	お薬を洗い流します。	↓ 5～60分・点滴	
④ グラニセトロンバッグ デカドロン注		無色	むかつき、吐き気及びお薬の過敏症を抑えます。	↓ 15分・点滴	
⑤ イリノテカン注 ® (イリノテカン)		無色	細胞増殖を抑えます。	↓ 90分・点滴	
⑥ 生食注		無色	お薬を洗い流します。	↓ 全開・点滴	

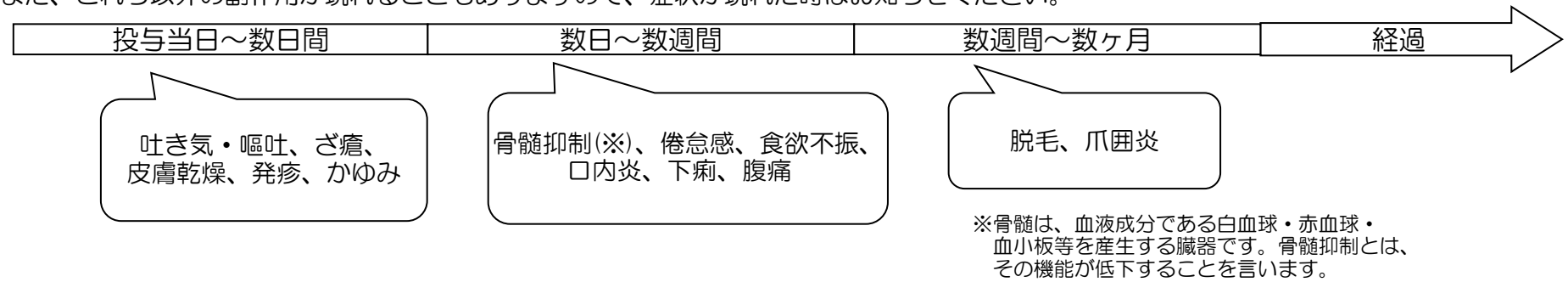
※お薬の投与速度・投与間隔が変わることがあります。
※また、症状に応じてお薬を変更・追加・削除することがあります。

【注意事項】

点滴中は安静にし、注射の針を刺している部分が動かないように心掛けてください。
お薬が皮膚に漏れると、針を刺している部分に違和感や痛み、腫れ、赤み等が現れることがあります。
このような症状がありましたら速やかにお知らせください。
また、このような症状は点滴終了後や、しばらくたってから起こることがありますのでご注意ください。

【副作用と発現時期】

ここにはあくまで一般的に予想される副作用が、いつごろ現れるかをお示ししています。
これらの症状が必ず起こるということではありません。発現頻度・程度・時期には個人差があります。
また、これら以外の副作用が現れることもありますので、症状が現れた時はお知らせください。



※骨髄は、血液成分である白血球・赤血球・
血小板等を産生する臓器です。骨髄抑制とは、
その機能が低下することを言います。

【注意が必要な副作用】

頻度は高くありませんが、次に示すような副作用が報告されています。下記の症状が現れた時は医師または薬剤師へお知らせください。

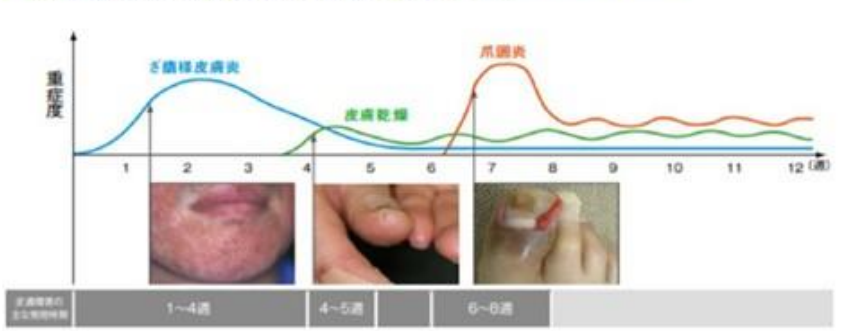
骨髄抑制	：★38℃以上の発熱、咳、下痢、排尿痛・残尿感、性器痛、肛門痛、鼻血、血便・血尿、歯茎出血、腕や足の赤い斑点、疲れやすい、めまい・息切れ
過敏症	：★呼吸困難、じん麻疹、眼および口の周囲の腫れ、冷汗、頻脈
消化器症状	：★突然の激しい腹痛、背部痛、重度の下痢、脱水症状、もたれ、胸やけ、吐き気、嘔吐、食欲不振
心障害	：★呼吸困難、足などのむくみ、咳の増加、胸痛、みぞおちや頚部の締付け、圧迫感、冷汗
腎障害	：★顔・手足などのむくみ、尿量減少、尿が赤みを帯びる、体重減少、口の渇き、高度の蛋白尿
肝障害	：★全身倦怠感、食欲不振、疲れやすい、腹部不快感、黄疸(皮膚や眼などが黄色くなる)
脳障害	：★突然の激しい頭痛、意識障害、歩行時のふらつき、四肢末端のしびれ感、舌のもつれ、うまく話せない、けいれん発作、精神状態変化、視覚異常
肺障害	：★胸痛、意識障害、呼吸困難、(空)咳、発汗、発熱、ピンク色の痰がでる、尿量減少、むくみ
臭覚障害	：★臭いが感じにくくなる
手足症候群	：★手のひらや足の裏がぴりぴりする、指先の感覚異常、皮膚や爪の変色
下痢・脱水	：★口の渇き、手足のふるえ、過呼吸、重度の下痢、意識障害(時に昏睡)
出血	：★口から血を吐く、血便、鼻血や歯肉、膣からの出血
皮膚障害	：★にきび、あかぎれ、爪の変形

連絡先　大津赤十字病院
TEL 077-522-4131

平日8:30 ～ 17:00　受診されている診療科
平日17:00 ～ 翌8:30 及び 休日　救急外来

2026/11改訂

皮膚症状に対する治療薬について

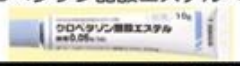


アービタックス適正使用ガイドより抜粋

★以下のお薬は、皮膚の症状を予防するためのものです。
治療のお薬が始まったら、一緒に使い始めて下さい。

分類	医薬品名	用法用量
抗生物質	ミノマイシン®錠 	1日2回 1回1錠　服用
保湿薬	ヘパリン類似物質®クリーム 	1日6回 かお・手・足・からだの保湿
保湿薬	ヒルドイド®ローション 	1日6回 かお・からだの保湿

★以下のお薬は、皮膚の症状が出てきたら使用して下さい。

分類	医薬品名	用法用量
ステロイド薬	クロベタゾン酪酸エステル®軟膏 	1日2回 かおの皮疹
ステロイド薬	アンテベート®軟膏 	1日2回 手・足・からだの皮疹
ステロイド薬	リンデロンVG®ローション 	1日2回 あたまの皮疹

外用薬の塗り方（単純塗布法）

★ポイント
- ○ 外用薬を塗る時は、必ず手を洗いましょう。
- ○ 狭い患部に塗る時は、指の腹部を使い、広い患部には手のひらを使います。
- ○ お薬をすり込むのではなく、皮膚に刺激を与えないようにやさしく塗りましょう。

ステロイド薬
指の腹でお薬をとり、患部に薄く塗り広げるように塗ります。

保湿薬
手にとり、塗る部分に点在させます。指先ではなく、手のひらを使って、
やさしく丁寧に、出来るだけ広い範囲に塗ります。

★お薬を使用する際の注意点
- ○ 5種類の外用薬が処方されますので、使用部位や回数を間違えないようにしましょう。
- ○ 外用薬を重ねて塗る場合、保湿薬→ステロイド薬の順番で塗りましょう。
- ○ 別に医師の指示がある場合は、指示に従ってお薬をご使用ください。

外用薬の塗布量

- ○ 外用薬の塗布量を表す単位として[FTU]が使われています。
- ○ 1FTUとは軟膏剤・クリーム剤は人差し指の先端から第一関節まで絞り出した量、
  ローション剤の場合は手のひらに1円玉大に出した量を表します。
- ○ 1FTUで大人の手のひら2枚分に相当する面積を塗布することができます。

1FTUの量とは



部位毎の使用量の目安

